

PWすぎなみ会則

1. 会の名前は「PWすぎなみ」といいます。
2. 会の事務局は会代表の住所におきます。
3. 会は、プロジェクト・ワイルド環境教育プログラムの普及を目的とします。
4. 会の目的に賛同した人は、だれでも会員になれます。
5. 会は、目的を円滑にやりとげるため、会員で話し合います。
6. 会は、会の運営に支障がない限り、会費の徴収はしません。
7. そのほか、この会則に定めていない内容は、会員で話し合って決めます。
8. この会則の改廃は、会員で話し合って決めます。

附則 この会則は、2005年2月12日から有効です。

PWすぎなみの活動目的

- 子どもたちへのアクティビティの実施およびその支援（出前授業や課外活動での実施など）
- 一般区民（子どもから大人まで）への体験講座の開催（紹介と普及のためなど）
- 指導者養成講座の開催
- 指導者フォローアップ講座の開催
- メンバーの知識・技術の向上（レパトリーを増やすなど）
- 教材の製作・保管
- 新しいプログラムの開発
- 新しい教材の開発・製作
- 情報の交換
- 普及・広報
- その他

PWすぎなみの活動の範囲はおよそ杉並区内に限定していますが、ときどき都心や郊外、あるいは他県まで出向いて活動を展開することもあります。

入会のご相談やお問い合わせ、入会のお申し込み、また、協働で活動を展開したいという誘いなどは、メールで事務局宛にご連絡ください。

PWすぎなみのご紹介

PWすぎなみは、東京都杉並区を中心に、プロジェクト・ワイルド環境教育プログラムを小・中・高等学校の総合的な学習の時間などに取り入れた出前授業の実施、一般区民（子どもから大人まで）を対象とした体験教室の開催、指導者養成講座（エドゥケーター養成講座）の開催などを目的に活動を展開している団体です。

PWすぎなみの会員は、プロジェクト・ワイルド環境教育プログラム指導者の有資格者をはじめ、これから指導者の資格を取得しようとする者などで構成されています。

プロジェクト・ワイルド環境教育プログラムについては、別冊のパンフレットをご参照ください（お持ちでない方は事務局宛にご請求ください）。

PWすぎなみ会員一同、あなたといっしょに環境教育・環境学習のために協働できる日を楽しみに待っています。あなたも会員になって、私たちといっしょに参加型の体験学習指導を実践しませんか？



PWすぎなみ事務局

〒166-0001

杉並区阿佐谷北6-17-12

TEL 03-3337-1952

FAX 03-3337-1954

E-mail : pws@skogs-mulle.org

<http://skogs-mulle.org/PW-Suginami/>

「自然を大切に」と教えるだけではなく、自然や環境のために責任を持って行動できる人を育てる

アメリカで開発され、25年以上の歴史を持つ、環境教育プログラム
プロジェクト・ワイルド

その普及と啓発のために活動する

PWすぎなみ

入会のお誘いと活動のご紹介



気づきから、責任のある行動へ

PWすぎなみ こんな授業のお手伝いをしています

★実施例その1 杉並区立杉並第十小学校5年生

杉並第十小学校では、学校のまわりの都市公園を舞台に「総合的な学習の時間」で野鳥の定点観察を行いました。学習の理解を深めるために、プロジェクト・ワイルドのアクティビティ「すばらしき適応」と「渡りはつらいよ」を実施しました。

「すばらしき適応」は、鳥の姿や形にはそれぞれ有利な点があることに気づき、鳥の体が生息環境にどのように適応しているのかを学びます。杉並第十小学校では、野鳥観察で観た鳥について、くちばし、足、脚、翼、体の色など、鳥にはさまざまな適応がみられ、鳥はそれぞれの環境や生活様式に合わせながら進化してきたことについて理解を深めました。子どもたちはグループに別れ、自分たちの身近にある都市公園に「最もふさわしい鳥」をイメージし、その絵をみんなで話し合いながら描きました。



班ごとに、みんなで相談しながら、公園に最もふさわしい鳥をイメージし、その絵を描きました。

描いた鳥の絵を班ごとに発表し、ほかの班からの質問や提案などに答えました。

「渡りはつらいよ」は、生きものの季節移動を題材に、子どもたちが渡り鳥となって越冬地と繁殖地を往復します。そして繁殖地や越冬地の保全の重要性について学びます。子どもたちは冬の公園で観たカモ、オシドリ、オナガガモの立場になって、越冬地日本と繁殖地を往復し、渡り鳥の生存に人間が与えている影響などについて理解を深めました。



越冬地の渡り鳥たちは、春になると繁殖地をめざして飛んでいきます。繁殖地では、何が起きているのでしょうか。



年ごとの渡り鳥の数の変化について説明を聞き、人間生活が渡り鳥に及ぼす影響などについて理解を深めます。

★実施例その2 杉並区立浜田山小学校2年生

浜田山小学校では、近くの区立柏の宮公園を利用して生きもの調べを行いました。学習の理解を深めるために、プロジェクト・ワイルドの「水辺新聞（柏の宮公園新聞）」と「ジャングルゲーム」を行いました。

「水辺新聞（柏の宮公園新聞）」は、柏の宮公園の自然を詳しく取材しながら、子どもたちが取材した内容を絵と文章で「記事」に仕上げました。このアクティビティをとおして、自分たちの身近にある公園で、そこに棲む生きものたちが生きていくために、どのような環境が必要なのか、理解を深めることができました。

「ジャングルゲーム」は、柏の宮公園の自然環境を利用した「かくれんぼ」です。みんなは弱い動物（獲物）になりきって、天敵（おに：捕食者）から身を隠す術を学びました。こうした「遊び」感覚のアクティビティをとおして、自然のなかで生きものたちが適応している様子、どうやって天敵から身を守っているのか、理解を深めることができました。



生きもの、とくに昆虫類はみんなの人気者でした。つかまえたバッタをスケッチしながら、柏の宮公園の自然について、記事をつきました。



柏の宮公園のピオトープもいろいろな記事を提供してくれる場所でした。おおぜいで取材しても、記事が重複する心配はありませんでした。



自然って不思議な力もっている。これだけおおぜいが隠れても、誰もみつからない。森のなかで弱い動物たちは、こうやって天敵（捕獲者）から身を守っているんだ！



弱い動物たちは、ただ隠れているだけではありません。常に天敵（捕獲者）の様子に気を配っています。安全になって、再び自分たちのいつもの生活に戻るチャンスをうかがっているのです。

PWすぎなみは、幼児から大人までを対象に、プロジェクト・ワイルド環境教育プログラム（Growing Up WILD 編、本編、水辺編、サイエンス&シビックス編）のすべてを指導することができる有資格者を多数擁しています。総合的な学習の時間など、学校授業サポートのお問い合わせは、事務局までお願いいたします。